

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	経営戦略研究科・経営戦略専攻
大項目	2 教育課程等
中項目	
小項目	2.0.1 学習目標
要素	学習目標をシラバス等に明記し、学生に周知公表をしているか。 学習目標の達成のために、授業科目履修指導指針を定め、履修相談に応じる配慮をしているか。 学習目標の達成のために、学生、教員及び職員間のコミュニケーションシステムを構築し、学習相談及び学習助言の円滑化を図る方策をとっているか。
小項目	2.0.2 教育課程
要素	教育課程の編成において、「教育研究上の目的」を達成する理論的教育と実務的教育の架橋に留意し、マネジメントの教育研究及び実務の動向に配慮しているか。 教育課程の編成において、企業等組織のマネジメントに係る高度専門職業人育成に必要な高度の専門的知識・技能と高度の職業能力の修得、職業倫理観の涵養及び国際的視野の拡大に配慮しているか。 教育課程の体系的な編成において、マネジメント教育に必要なコア科目への分類を含めて体系的に配置しているか。 教育課程を検証するプロセスを明確に定め、継続的に検証しているか。 他研究科の授業科目の履修、他大学との単位互換、インターンシップによる単位認定等の措置を講じているか。 授業の方法において、実践的な教育を行うために事例研究、現地調査、双方向又は多方向に行われる討論又は質疑応答その他の適切な授業の方法を導入しているか。 授業の方法において、多様なメディアを高度に利用して通信教育の授業を行う場合には、授業の実施方法の整備に努め、教育効果の向上に努めているか。
小項目	2.0.3 教育水準
要素	教育内容の水準を維持していくために、学習環境及び学習指導体制を整備しているか。 教育内容の水準を維持していくために、1単位の授業科目の学修に必要なとされる授業時間を確保しているか。 教育内容の水準を維持していくために、授業科目の時間割配置を適切にし、授業科目の履修登録単位数の上限を設定し、授業科目の履修を適切にする指導をしているか。 教育内容の水準を維持していくために、履修した授業科目の学業成績の評価基準及び教育課程修了の判定基準を明確に定め、学則等に記載し、学生に周知公表しているか。 教育内容の水準を維持していくために、学業成績の評価及び課程修了の判定を公正に実施し、客観性と厳格性が得られる措置を講じているか。 教育内容の水準を維持していくために、授業科目の履修登録の学生数を、授業の方法等の教育上の諸条件を考慮して授業の教育効果が十分に得られる適正な数としているか。 教育内容の水準を維持していくために、留学生等の学生の多様化に対応した履修指導、学習相談及び進路指導等の学生支援を適切に行っているか。また、通信教育を行う場合には、十分に配慮した学生支援を適切に行っているか。 教育内容の水準を維持していくために、学生の科目履修及び単位取得の状況等についての情報を教員間で共有し、必要な改善措置を講じているか。 標準修業年限を短縮している場合には、「教育研究上の目的」に照らして、十分な教育成果が得られる教育方法及び授業時間割設定の配慮をしているか。
小項目	2.0.4 教育研究の質維持向上の取組
要素	開講する各授業科目の授業目的、授業内容、授業計画、授業方法、使用教材、オフィスアワー及び授業評価基準等を明記し、学生の学習目標の達成に資する内容のシラバスを作成し、公開し、ピアレビューによるシラバスの検証をしているか。 学生の科目履修状況、課程修了状況、単位取得状況、学業成績状況及び進路状況等の調査から、また、ステークホルダーの意見等から、教育課程の改善の検証をしているか。 教育研究の質維持向上を図るために、自己点検評価を継続的に行い、その評価結果を広く社会に公表しているか。 教育研究の質維持向上を図るために、自己点検・評価の結果をフィードバックし、教育研究の質の維持向上及び改善を図る組織的な研修をしているか。 教育研究の質維持向上を図るために、教員の優れた教育及び研究の業績を評価する制度を整備しているか。

II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。

進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. Organize the curriculum, in terms of time and contents, so that it would be easier for the working students to take classes. 多忙な社会人学生が受講しやすいような時間と内容に配慮したカリキュラム体系の整備	→Provide the courses by e-learning, establish the courses conducted mainly on Saturdays and Sundays, and provide the pre-courses before entrance for students to learn mathematics, statistics, and to learn how to use PCs. eラーニングでの科目提供や土日集中型履修コースの設置と入学前の主として数学・統計学とパソコン操作等に慣れるためのプレコースの提供	D	C			

<p>2. Adjust curriculum to maintain a good balance between rigor (academic theory) and relevance (practical application) of the content of our courses. (カリキュラムを改善し、授業内容のrigor (学術的理論)とrelevance(実践)の良いバランスを維持する)</p>	<p>→Examine curriculum to determine appropriate balances of rigor and relevance. (rigor及びrelevanceの適度なバランスを保つため、カリキュラムを検討する。)</p>	⇒	A	A			
<p>3. Examine courses and adjust number and type of electives. (授業科目の検討と選択科目の数・種類の調整を行う)</p>	<p>→Examine the overall number of our elective course offerings and add and delete where necessary. (アドバンスド科目全体の数の検討。必要に応じて追加・削除。)</p>	⇒	B	B			
<p>4. Examine our main courses and adjust the sequencing where necessary. (主だった授業科目の検討と履修ステップの調整を行う)</p>	<p>→Examine the core and basic courses and where necessary and possible introduce prerequisites and sequencing. (コア及びベーシックの検討。必要に応じて先修条件科目と履修順を導入。)</p>	⇒	C	C			
<p>5. Develop the option of having Japanese language and Japanese business/management as a more prominent part of our curriculum. (カリキュラム内で、日本語及び日本型ビジネス・日本型経営への理解を深められる選択肢を開発していく。)</p>	<p>→Examine the number of courses offered on the Japanese business environment and work with other units of Kgu to develop options for Japanese language courses for our students. (日本型ビジネス環境に関する科目数を検討し、大学内の他学部と協同で日本語クラス履修の選択肢を準備する。)</p>	⇒	C	C			

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	⇒	2009	2010	2011	2012	2013
なし	→なし	⇒	/	/	/	/	/
なし	→なし	⇒	/	/	/	/	/

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

<p>小項目2.0.1</p>	<p>2.0.1 学習目標 (説明) 3つの項目すべてについて対応している。 All syllabus are monitored and checked for their appropriateness and consistency, before they are made public to students. Students benefit from the orientation program at the time of enrollment. Faculty members are available for students consultation at their respective office hours. シラバスは全て、適合性や一貫性を検証した後、学生に周知公開されている。入学時のオリエンテーションが学生の学習目標設定のために役立っている。教員は、オフィスアワーを通じて学生の相談に応じる体制をとっている。</p>
<p>小項目2.0.2</p>	<p>2.0.2 教育課程 (説明) 通信教育は提供していない。それ以外の要素についてはすべて対応している。 IMC faculty members are quite active in publishing and presenting their research at international journals and conferences. IMC maintains students exchange relationship with several overseas business schools, and IMC students significantly benefit from these relationships. We have assessed the sequencing of the courses taught by IMC faculty. We have determined that the current arrangement of core, basic and advanced courses offered by our faculty follows a pattern that allows students to build a foundation of knowledge in each discipline upon which they can take advanced courses. 国際経営コース教員は、国際会議での研究発表や国際的雑誌への論文発表を活発に行っている。また、数校の海外ビジネススクールと学生交換協定を締結しており、学生の国際的視野や拡大に大いに役立っている。国際経営コース教員が担当する科目間の連続性に対する評価を行った結果、学生は、現在のコア・ベーシック・アドバンストの配置によって、まず自分の専攻分野のアドバンスト科目を履修するために必要な基礎知識を習得するということが可能になっていることが明らかになった。</p>
<p>小項目2.0.3</p>	<p>2.0.3 教育水準 (説明) 多忙な社会人学生が履修しやすいような時間割の作成が依然として完全ではない。 Grading guidelines are made public to students through syllabus. Students are periodically surveyed on IMC's curriculum, class schedule, class size and their learning environments for possible future adjustments and modifications. Students are also allowed to ask for reevaluation of their grades, when they feel their original grades do not properly represent their performance. 学業成績の評価方法は、シラバスを通じ学生に周知公開されている。定期的な授業評価アンケートの実施により、国際経営コースのカリキュラム、授業スケジュール、またクラスの規模や学習環境に関する今後の改善点について、学生からの意見を得られている。また、成績評価に対して意見がある場合、学生は成績評価の疑義調査を求められることができる。</p>
<p>小項目2.0.4</p>	<p>2.0.4 教育研究の質維持向上の取組 (説明) すべての要素について適切に対応している。 All syllabus are monitored and checked for their appropriateness and consistency, before they are made public to students. Initiatives for self-evaluation and feedback monitoring are continuously maintained. シラバスは全て、適合性や一貫性を検証した後、学生に周知公開されている。自己点検評価およびそのフィードバックも継続的に実施されている。</p>

その他

《評価指標データ》

★ 曜日別時間割と学生の履修割合

★

★

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目2.0.1	
小項目2.0.2	
★小項目2.0.3	
小項目2.0.4	
その他	

《次年度に向けた方策(1)》伸長させるための方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目2.0.1	
小項目2.0.2	
★小項目2.0.3	
小項目2.0.4	
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(2)》改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目2.0.1	
小項目2.0.2	Some IMC faculty members express concern that some students lack basic knowledge to take "basic" or "advanced" classes. 国際経営コースの中には、ベーシック科目またアドバンスト科目の履修に必要となる学生の基礎学力の欠如について懸念を示している教員もいる。
★小項目2.0.3	土曜日の授業と日曜日の授業との時間割のバランスを図る。最近の傾向として、日曜日の授業を回避する学生が増加しているように感じる。
小項目2.0.4	2011年度より、成績評価のより厳格化を推進している。
その他	

《次年度に向けた方策(2)》改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目2.0.1	
小項目2.0.2	Appropriate sequence of classes should be repeatedly emphasized by each faculty member. 適切な科目履修の順番に関しては、その重要性について各教員が繰り返し強調する必要がある。
★小項目2.0.3	調査しながら改善を図ってゆきたい。
小項目2.0.4	成績不良者への教務学生委員の面談の機会を設けるようにする。
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★ その他
(自由記述)

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価専門委員会の評価>

- 改善すべき事項の小項目2.0.4の記述「厳格化を推進している。」は、求められている説明ではないので、適切な説明をすることが望まれます。
- 小項目2.0.1は、要素で挙げられているようなことにはすべて対応されていることは評価できます。ただし、現状の説明には、例えばシラバスの検証はどのようなプロセスを経て行われているのか、オリエンテーションが学習目標設定に役立っているとするものの根拠は何か、オフィスアワーでの相談の実績や成果、検証結果なども含めて記述されることが望まれます。他の小項目の現状説明においても同様のことが望まれます。
- 小項目2.0.2では、コア、ベーシック、アドバンスト科目の連続性が検証されているようですので、今後の教育課程の編成等に役立てられることが期待されます。
- 各評価項目について適切に対応されていることが伺えます。ただ、各評価項目の要素が多いので、現状説明は簡潔にする必要があるとは言うものの、「適切に対応している」だけでは現状がつかめず、不十分な感じがするものがあります。
- 昨年度、改善方策にあげられたことの進捗がどのようなものか、本年度には記述がありません。昨年度の改善方策がどうなったかを示すことでPDCAサイクルが機能しているか確認できます。
- 本記述の改善方策は具体的ではありませんが、方策を実施され、一層の改善が進むことを期待します。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

成績評価については、絶対評価ではあるが、成績分布がBとB+を中心に左右に均等に配分するように努力することが合意されている。実際の成績分布もそれに近づいてきている。

- ★ 教務学生委員が全シラバスの適切性・一貫性を検証している。改善の余地が認められる場合は、改善点について科目担当教員と話し合う。また、例えばゲストスピーカー招聘の適切さなどを判断する場合などにも必要に応じてチェックし、不適切な場合には修正を求めている。オリエンテーションについては学生達の反応から役に立っておりメリットがあると自負している。オフィスアワーに関しては、実施回数の多さがカリキュラムの質の高さに比例するわけではないため、残念ながら統計データを取っていない（つまり、学生がオフィスアワーをよく利用するという事は授業の質が低く学生が授業中にその内容を十分に理解できていないことの表れとも言える）。